

平成29年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

広中央中学校区 校番4 学校名 広中央中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
<p>***</p> <p>確かな学力の育成</p>	<p>学力の向上を図る。</p>	<p>(1)めあてやまとめの工夫などを行い、学力の向上を図る。</p> <p>(2)学習規律の徹底や家庭学習の習慣化を図る。</p>	<p>・教職員アンケートによる肯定的解答71%</p> <p>・本年度本校に異動となった先生方も含め、職員全員への本校の取組の周知が徹底されていない。また、今年度の授業改善のポイントの一つとして「振り返りの工夫」を取り入れたが、どう工夫すれば良いのか試行錯誤している段階であるため。</p> <p>・「ベルスタートができた」と答える生徒の割合は全体では97.9%で、1年生が98.1%、2年生が97.7%、3年生が97.8%が肯定的回答をしており、昨年度より引き続き落ちて学習している。</p> <p>・「学年の家庭学習時間が守れた」と答える生徒は全体で58%(塾を含める)が肯定的回答をしている。(1年生1時間に対して93.5%、2年生1.5時間に対して45%、3年生2時間に対して35%)学年が上がると家庭学習時間も長くなり、長時間の家庭学習時間が実施できていない現状である。毎日の課題も家庭ではなく、休憩時間や朝の会の合間の時間等を使ってやり、結果的には家庭学習時間の減少につながっていると思われる。</p>	<p>・研究部通信などを通じて、振り返りの工夫のポイントを紹介して、2学期の授業交流週間に取り組んでいく。</p> <p>・県が提案する課題発見・解決学習の取り組み方を提案し、その中のポイントである「振り返りの工夫」を意識して授業改善に取り組む。</p> <p>・「ベルスタート」については、今後も教職員が授業開始のチャイムまでに教室に行くことを意識し、授業の準備に対する声かけを行い、落ち着いた学習ができるようにしていく。</p> <p>・教職員と生徒が各学年の家庭学習の目標時間を認識し、教職員は生徒に自主的な家庭学習の啓発を促していく。週末課題の内容も検討していかなければならない。</p>
<p>**</p> <p>豊かな心・たくましい体の育成</p>	<p>自尊感情の高揚を図る。</p> <p>体力の向上を図る。</p>	<p>(3)規範意識を身に付けさせる指導の充実を図る。</p> <p>(4)特別活動や体験活動等の充実を図り、自尊感情の高揚を図る。</p> <p>(5)呉市・校区・本校での重点目標の達成を図る。(50m走・ハンドボール投げ・上体おこし)</p>	<p>・今年度の目標として、「8時20分教室入室」、「最後まで話を聞いて行動する」の2点を重点項目に置き、ともに90%以上の生徒ができることを目標にした。1学期のアンケート結果から、前者が96.7%後者が95.6%の結果が出ており、概ね目標は達成できている。</p> <p>・8時20分教室入室することにより、落ち着いて朝の活動(朝読書や天風録書き写しなど)に取り組めるようになった。1日のスタートをきちんと始めることで落ち着いて学校生活を送れるようになった。</p> <p>・自分の居場所があると感じる生徒の割合は86%であった。特に1年生は92%と高い割合を示しており、小学校生活から中学校生活への移行が円滑にできた生徒が多いと考えられる。一方、否定的な回答をした生徒については、原因として仲間との人間関係が希薄であったり、自分の思いが認められていない点が原因として考えられる。</p> <p>・新体力テストC判定以上の生徒の割合は新体力テストの結果では、全校生徒のうち、C判定以上が398人、D判定以下が77人と84%がC判定以上である。体力合計点も全学年平均点を上回っている。呉市の強化種目である50m走は、2年生男子は校内平均7.94Pで全国平均の7.84Pを下回り2年生女子では校内平均8.88Pで全国平均の8.74Pを下回っている。ハンドボール投げ、上体おこしは上回っている。</p>	<p>・朝遅れがちな生徒は決まっており、説諭、家庭連絡をしていく。</p> <p>・朝会などの集会では、頭を上げさせる指導を行う。また、声かけを行っていく。授業では、大事な場面では手を止めさせ、話を聞く姿勢を作らせる。</p> <p>・アンケートの実施や、個人面談を行うなどして生徒の様子を丁寧に見ていく。普段の様子や学級の雰囲気等から集団を俯瞰的に見たり、その集団に属する個人を見たりと多角的に一人一人の様子を把握していく。教職員同士の情報交換を密にし、生徒理解に努める。</p> <p>・体力テストの結果は、保護者にも生徒にも公表し、体育の授業のめあてにさせる。</p> <p>・夏休みの課題として縄跳びなどを中心に体力づくりに取り組ませると共に2学期に再度50m走のテストをするなど強化する。</p>
<p>*</p> <p>信頼される学校</p>	<p>信頼される学校</p>	<p>(6)全教職員で服務規律を守り、主任等を核とした組織マネジメントを確立する。</p> <p>(7)保護者や地域への情報発信の充実を図る。</p>	<p>・「服務に関する研修は、当事者意識を持てるものになっている。」の肯定的な回答は100%であった。研修の担当を、各主任・主事で分担し、それぞれが企画し実践することが、我がこととして考える要因になっているものと思われる。</p> <p>・「マネジメントサイクルを意識し、校長の方針にそった実践を行った。」の肯定的な回答は100%であった。しかし、「主任・主事」や「主任・主事以外」とも、「よくあてはまる」と回答した割合は50%であり、低い値を示している。</p> <p>・「広中央中学校の教育に満足している」と、肯定的な回答した保護者の割合は91%であった。うち、「あてはまる」という回答は34.9%(昨年度31%)、「ややあてはまる」という回答は55.6%(昨年度59%)であった。これまでの学級・学年・学校通信やホームページを通じた情報発信はもとより、生徒が落ち着いた学校生活を送っている様子を保護者や地域の方々に見ていただいていることに起因すると考えられる。</p>	<p>・教育公務員による不祥事は、公教育に対する信頼を大きく損ない、効果的な教育実践が困難となる。しかし、今年度も県内においてわいせつ事案や体罰事案等、教職員による不祥事は減少したものの依然生起している。自分の学校のこと、自分のこととして捉え、不祥事を生起させない職場の同僚性を構築すべく、今後も起案システムによって研修内容の充実を図る。</p> <p>・引継ぎが不十分であったため、企画委員会の内容が教職員に周知されなかった。ここでの協議内容や校長の経営方針等を、紙面にまとめ配布することで、企画委員会に出席しない全ての教職員に周知していく。</p> <p>・文化活動発表会、日曜参観等の学校行事を通して、保護者や地域の方々から実際の生徒の様子を見ていただける機会をもつ。</p> <p>・学級・学年・学校通信やホームページを活用して、情報発信を計画的に行い、保護者や地域の方々からの本校への信頼を高めていく。</p>